



民生児童委員委嘱書交付式

◆介護離職の防止策

問 市内の離職者の状況は。  
答 在宅介護者963人のうち、約200人が仕事を辞めた経験がある。

問 市の相談体制はどうか。  
答 長寿課、包括支援センターで対応している。

◆市街化調整区域の見直し

問 区域を見直す場合の具体的なハードルは何か。  
答 区域区分制度の決定者は県であることから、県及び市の上位計画との整合及び変更が必要である。上位計画の変更は県総合計画審議会、県都市計画審議会への合理的な説明が必要となる。

問 空き家バンクへの登録と補助制度から調整区域の空き家が対象外となっているが、見直す考えはあるか。  
答 対象となるよう見直して

いきたい。

◆市内の子供の貧困対策

問 子供の貧困の現状は。  
答 27年度は、要保護、準要保護合わせて617人で児童生徒を取り巻く経済環境は厳しさを増している。

清風クラブ

質問者 西條 富雄  
中野重則・平間正治

持ち時間100分

地域資源を生かした交流の推進・介護保険制度改正・人口減少対策

◆ジャコウアゲハが飛び交うまちづくりについて

問 幼虫の食草「ウマノスズクサ」を移植し、遊休農地利用と賑わい創出に繋げることに、市の考えは。



ジャコウアゲハ

答 自然保護活動の観点や、希少動植物の状況調査等、専門的な知識者のご意見を聞き、研究していく。

問 上田市や小谷村のアサギマダラで遊休農地を利活用した成功例を参考に、遊休農地を整備することについて、市の考えは。  
答 移植・栽培方法や環境条件など研究する。

◆伝統野菜をPRした地域おこしについて

問 県「信州伝統野菜認定制度」認定の野菜による地域おこしについての市の考えは。  
答 本市固有の伝統野菜の告知と生産継続に環境整備する。

問 「羽淵キウリ」「木曾菜」「切葉松本地大根」などによる遊休農地利用と需要拡大について、市の考えは。  
答 産地規定がある。

◆高ボッチ高原の通年観光について

問 春のツツジや草競馬に加え、秋の花木を植林させ、通年観光につなげては。  
答 国定公園内の整備には県知事の許可が必要で、観光目的の整備は難しい。

◆「ぴんころ地蔵」建立による賑わい創出について

奈良井宿・木曾平沢地区

の賑わい再創出に、高齢者誘客に他市で成功例の「ぴんころ地蔵」を建立することについて、市の考えは。  
答 重伝建保存地区と健康長寿とはストーリーが異なる。

問 ならい庄周辺の賑わい再創出につながると思うが市の考えは。  
答 行政が主体となつての建立例は見受けられないが、地元や市民有志の動きがあれば協力する。

◆渋谷アンテナショップの3人目のシェフ交代について

問 平成24年以降、3回目のシェフ交代の現状と将来について、市の考えは。  
答 本市の情報発信拠点として一定の役割を果たせたので、来期の契約はしない。

◆介護保険制度改正について

問 総合事業移行について、利用者への説明は。  
答 広報紙や窓口での周知啓発と併せ、介護認定更新時に個別説明する。

問 地域の多様な支援の充実に向けた、サポーター養成について、市の考えは。  
答 29年度までに生活支援コーナーディネーターを配置する。

問 小規模介護施設等の介護者のレベルアップに、定期講